

# 音楽科学習指導研究委員会

## 一 研究テーマ

「思いや意図」をもって、意欲的に表現する子どもを求めて

## 二 テーマ設定の理由

本委員会では、上記テーマを継続的に掲げ実践を積み重ねてきた。昨年度までの教育課程研究協議会および、昨今では長野県音楽教育学会上小大会（平成30年度）、全日本小学校管楽器教育研究大会長野県上小大会（令和元年度）等の大会を通して、多くの参会者の先生方からいただいた意見や示唆から、次のようなことが明らかになってきた。

- ①音楽の要素の一つであるリズムについては、義務教育9年間の全ての学習につながってくる、その年、その時に確かな基礎力として身につけさせたい。
- ②音楽づくりでイメージを表現するためには「題名（タイトル）」をつけることが有効である。大切にしたいのは、「やさしくそっと風が吹く」（ppでゆっくり弾く）、「あかるくふりそそぐ」（fで音が細かく、速く）というように、音楽表現に直接つながるタイトルをイメージさせることである。
- ③楽曲の持つ魅力を感じたり、音楽的にも言語的にも表現を深めたりするためには、比較することが欠かせないと考える。例えば同じ楽曲でも、異なる楽器での演奏では、全く違う楽曲に聴こえる場合がある。これには、特徴を感受し、違いを思考した上で、相手に伝える言語化の力が必要になり、その繰り返しから音楽を感じ取る力が身につけてくると考えられる。
- ④音楽をより身近に、そして深く感じるためには、音楽科の学習と共に、カリキュラムマネジメントを実践し、教科等の横断的な取り組みや、学年を越えた学習が必要になる。
- ⑤「音楽づくり」の授業では、条件付けと見通しを持つことの2点が特に重要になる。

が挙げられる。

また昨年度は、新型コロナウイルスの流行により、教育課程研究協議会が中止となったり、音楽科においても規制が増えたりする中、何ができるのかを模索し1年間のカリキュラムを履行してきた。並行して行った、「コロナ禍における音楽教育に関するアンケート」からわかってきたこととして

- 各校により工夫された実践が施されており、音楽の学びを止めていないこと。
- 活動の制限された中で、より教育的効果をねらった実践を見つけ出していくことに、音楽科の役割がある。
- 制限の中から新しく発見されてきた利点があることも確かで、今後の音楽教育を考えていく上でとても有効であること。
- 各校の工夫された実践の中から、自校に活かせるものが数多くあり、次年度以降に取り入れていきたいと思うこと。

が挙げられる。

今までの実践から明らかになってきたことを、アンケートの結果を踏まえ、「コロナ禍における音楽教育」をどう実践していくかについて、さらに研究を深めていき、今後、子どもたち一人一人が思いや意図をもって歌ったり演奏したり聴いたり創ったりできるために、音楽科としての授業実践はどうあったらよいのかを深めたいと考え、本研究テーマを設定した。

### 三 研究の経過

第1回	5月7日	委員会	研究テーマ設定と研究計画の立案
第2回	5月18日	第1回音楽科授業研修会	(音楽同好会と共催)
第3回	6月15日	委員会	授業参観(北御牧小学校)
第4回	6月25日	第2回音楽科授業研修会	(音楽同好会と共催)
第5回	8月19日	第3回音楽科授業研修会	(音楽同好会と共催)
第6回	11月29日	委員会	本年度のまとめ

### 四 研究の内容

#### 小学校実践

令和3年度 音楽科学習指導案	
日時	令和3年 9月6日(月) 第6校時
題材名	「沖縄の音階の音を使って音楽をつくろう」
授業学級	4年松組 男子18名 女子17名 計35名
指導者	長野県教育委員会学びの改革支援課指導主事 荒井 和之 先生
授業者	教諭 渡邊美奈子
授業会場	音楽室他

#### 1 全校研究テーマ

人・物・ことにかかわりながら、自らの学びに夢中になる子どもたち

#### 2 音楽部会研究テーマ

主体的に音と向き合い、仲間と共に音楽をつくる喜びを感じることができる子どもの育成

#### 3 学習指導案

##### (1) 題材設定の理由

本校では上記のようなテーマを掲げ、音楽科では「音楽づくり」の学習を通して、音楽部会のテーマに迫りたいと考えてきた。

1学期、リコーダーの学習を始めた3年生の子どもたちは、2羽のかっこうが出てくる4コママンガからかっこうの様子を具体的にイメージし、そのイメージを生かしてペアでかっこうの音楽をつくった。説明がなくてもマンガだけでおよそのかっこうの様子をイメージし、どんな音楽にするか思いを持つ様子が見られた。子どもたちは、マンガを見てイメージを共有し、それを表す音楽をつくるために試行錯誤しながら学習を進めていた。音楽づくりにおける工夫する音楽的要素は、「音程」「リズム」「音の重なり」の3点に絞った。音色や強弱についてはあえて触れず、子どもたちの試行錯誤の中から偶然出てきたら取り上げることにした。せっかちなかっこうの様子をタンギングを使いスタッカートで表現しようとしたり、のんびりしたかっこうの様子を優しい音色でなめらかに表現しようとしたりと、主体的に音と向き合い音楽をつくる姿が見られた。

2学期、4年生では日本の民謡に親しむ学習單元がある。日本民謡の旋律が持つ独特の雰囲気は、使われている「音階」によるところが大きい。そのため、日本の音階を使って節づくりをすると、どの音を選んでもその音階が持つ雰囲気を出すことができる。そこで「音楽づくり」を学習するに

あたり、4年生と日本音階をつかった音楽づくりを行うことにした。同じ音階を使っても、選ぶ音やリズムによりその音階特有の雰囲気を持ちながらも、違う音楽ができる。日本音階はおもに4種類あるが、今回は「沖縄音階」を使うことにした。「沖縄音階」は明るい響きに特徴があり、また少しコミカルな味わいがある。南国独特の雰囲気があり、子どもたちにとって「何となく聞き覚えがある」音階だと思われる。

音楽づくりにおいて、「自分たちで主体的に音楽づくりを追究していくための手立て」として、「イメージを共有できるもの」が必要なことがわかってきた。また、3年生の学習において音楽づくりをするときに「どういうことが音楽づくりにおける工夫なのか、教師と子どもが役割分担をし、即興的にリコーダーを吹いてみるなど具体的に理解させること」で、音程やリズムなどの音楽的要素を使いこなせるようになることも見えてきた。どうつくるか迷っている子どもにとっては、途中で友だちの作品を見たり聴いたりする学び合いが、自分たちがつくりたい音楽につながる糸口になることもわかってきた。これらをふまえ、音楽をつくるための映像や絵などのイメージの基を示し、音楽づくりへ向けて思いや意図を持たせ、そのために音の動きとリズムなどの要素を工夫すると音楽ができそうだと見通しを持たせることが、「主体的に音と向き合い音楽をつくる喜びを感じることができると子どもの育成」につながるのではないかと考え、本題材を設定した。

## (2) 題材の目標

- ①音の動きとリズムを工夫して、題材のイメージを表現するための沖縄音階を使った旋律をつくる技能を身につける。〈知識・技能〉
- ②音の動きやリズムを生かしてどのように題材のイメージを表現する旋律をつくるかについて、思いや意図を持ったりする。〈思考・判断・表現〉
- ③友達と協働して旋律をつくる学習を通して、日本の音楽への興味関心を高める。〈主体的に学習に取り組む態度〉

## (3) 評価規準

知識・技能〈知・技〉	思考・判断・表現〈思・判・表〉	主体的に学習取り組む態度〈態〉
題材のイメージに合った音楽をつくるために、音の動き、リズムなど音楽の要素の知識を生かし、ペアで旋律を聴き合いながら沖縄音階を使った4小節の音楽をつくる技能を身に付ける。	題材のイメージに合った音楽をつくるために、音の動き、リズムなどの音楽の要素を生かしてどのように4小節の音楽をつくるかについて思いや意図を持っている。	題材のイメージに合った音の動きリズムの変化などに興味関心を持ち、互いの音を聴き合いながら思いや意図に合った音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。

## (4) 児童の実態

4年松組の子どもたちは「学習していることをできるようにになりたい」という気持ちを持っている子どもが多く、学習に前向きに取り組む雰囲気がある。「歌のにじ」のリコーダーパートの演奏は右手の運指が多く出てくるため、最初は思うように指が動かず困っていたが、繰り返し練習しずいぶん動くようになってきた。また、副旋律であるリコーダーパートの最後の5音を使った旋律づくりの学習では、指定された音の中から選んでつくるので、音選びに迷うことなくどの子もつくることのできた。つくった旋律をテレビに映し、その旋律の楽譜を見てみんなで演奏することもできた。ソーラン節と谷茶前の鑑賞では、歌えそうなところを口ずさんだり、わからない言葉を聞き取ろうとしたりするなど、普段あまり耳にすることのない民謡に対して興味を持って聴く姿があった。

今回音楽づくりを行うにあたり鉄琴を使用楽器にした。音楽づくりにおける楽器演奏の技能面での差をできるだけ小さくしたいと考えたためである。リコーダーの場合、右手の運指が困難な子どもがおり、鍵盤ハーモニカの場合は鍵盤が多すぎて沖縄音階の音を選んで弾くのが難しい子どもがいる。鉄琴はたたけば音が出るので簡単であり、木琴より音がのびるため旋律のつながりがわかりやすい。

(5) 題材の指導計画 (5 時間扱い)

これまでの学習・・・日本の音楽についての学習 (3 時間)

- ・北海道の民謡「ソーラン節」を鑑賞したり、歌ったりして、日本の民謡の特徴を感じた。(7/12)
- ・「谷茶前」を聴き、どこの民謡か当てたり覚えやすいところを一緒に口ずさんだりした。(7/14)
- ・谷茶前の演奏を映像で見て一緒に口ずさむ。ソーラン節と谷茶前を比べて特徴をつかんだ。(7/19)

時	主な学習活動	主な教師の関わりと予想される児童の動き	学習指導要領との関連
	<p>●学習内容【音楽を形作っている要素】</p>	<p>◆評価規準 C:C 評価児童への手立て</p> <p>○教師の関わり ・児童の動き</p>	<p>【】・準備</p>
1	<p>●沖縄音階を口ずさんだり、鉄琴で弾いてみたりする。</p> <p>●2 小節の音楽を聴いて、すぐに真似をして弾く練習をする (まねっこタイム)。</p> <p>【音階、音色、拍子】</p> <p>●沖縄音階を使って音楽づくりをすることを学ぶ。</p>	<p>・沖縄音階を音階通り歌うのは難しいな。</p> <p>・鉄琴で沖縄音階を弾くのはおもしろいね。</p> <p>○教師が弾く簡単な 2 小節の旋律を鉄琴や歌で真似させることを通して、2 小節のまとまりをつかんだり音の動きに慣れさせたりする。また、鉄琴の音の出し方を身に付けさせる。</p> <p>○「沖縄音階を使って音楽をつくってみよう。私がある沖縄の生き物を選んでみました」と言って、沖縄の文化や自然の映像を見せてから、チンアナゴの音楽をつくることを確認する。</p> <p>◆鉄琴を使い、沖縄音階を使った音のつなげかたを試したり、聴き取った音を演奏したりする学習に興味を持って進んで取り組むことができる。</p> <p>C:子どもが何となく弾いた音を、教師が位置づけて音楽にする。</p>	<p>【〈態〉行動観察、演奏聴取】</p> <p>・鉄琴ペアで 1 台。</p> <p>・沖縄映像資料</p>
2	<p>●まねっこタイム【音階、音色、拍子、テンポ】</p> <p>●チンアナゴの動きをどう音の動きで表すか考えながら鉄琴で弾いたり、歌ったりする。考えた音を音楽シートに書く【音の動き、音色、拍子、テンポ、2 小節】</p> <p>●ペアで考えた音の動きを発表する</p>	<p>・教師が弾く 2 小節の旋律を聴いて鉄琴を弾いたり歌ったりする。ペアで役割交代して行う。</p> <p>○チンアナゴの動きをどう音の動きで表すか、実際に弾いたり歌ったりしながら考えさせ、話し合いながらおよそ 5 つのパターンに分類する。</p> <p>① 上へ伸びる→上行音階ドミファソシ等</p> <p>② 砂に潜っていく→下降音階ドシソファミ等</p> <p>③ 同じ体勢→動かない音階ソソソソソソ等</p> <p>④ 時々変わる→時々動く音階ソソソラソソソラ等</p> <p>⑤ 色々動く→色々動く音階ドソミソシドソ等</p> <p>◆チンアナゴの動きを表現するために、音の動き方を工夫することができる。</p> <p>C: 何か音を出させて、そこを糸口にイメージを問</p>	<p>【〈思・判・表〉行動観察、発言内容、演奏聴取】</p> <p>「チンアナゴのびたりちぢんだり」の音楽シート</p>

		いながら音をつなげてさせていく。	
3	<p>●まねっこタイム【音の動き、リズム、音色、拍子、テンポ】</p> <p>●「朝のチンアナゴ」の絵を見て弾いたり歌ったりしながらリズムを考える。</p> <p>【リズム、音色、拍、2小節】</p> <p>●つくったリズムを発表し合い、みんなでやってみる。</p>	<p>・2小節の旋律を聴いて鉄琴を弾いたり歌ったりする。ペアで役割交代して行う。</p> <p>○前時の絵からチンアナゴがパッと縮む様子はどう表せばよいか考える。</p> <p>・音をパッと速くするとパッと動く感じになる。</p> <p>○ソを使ってリズムの変化を考えさせる。</p> <p>・「寝てる」「あくび」「食べる」「あわてている」「おどっている」などの様子を表すリズムをペアで協力しながら考えさせる。</p> <p>・ソの音だけでもリズムを変えるとチンアナゴの動きの感じが出るね。</p> <p>◆チンアナゴの動きの様子を表現するためにリズムを工夫することができる。</p> <p>C:相手がつくったリズムを手で打ったりさせる。</p>	<p>【〈思・判・表〉行動観察、発言内容、演奏聴取】</p> <p>「朝のチンアナゴ」の音楽シート</p>
4	<p>●前時の絵から2枚選んで、ペアで4小節の音楽をつくる</p> <p>●近くの3～4ペアで集まって発表し合う。</p> <p>●次時につくる音楽のための4コマの絵を見て、チンアナゴのセリフをペアで考えながら書きこみ、音楽づくりへのイメージ共有する。</p>	<p>・食べてからあわてて学校へ行く感じにしたいな。音を選ぼう。1枚目はミミミミ～、2枚目はドソドソドソって速くしよう</p> <p>○つくった旋律をシートに記入させる。</p> <p>◆チンアナゴの動きに合った音楽をつくるためには、音の動きとリズムを工夫すればつくれることがわかる。</p> <p>C: 絵をよく観察させて、気付いたことを言わせるなどしてイメージが持てるようにする。</p>	<p>【〈知・技〉行動観察 発言内、演奏聴取】</p> <p>3つの教室用意</p>
5		本時	

(6) 本時案

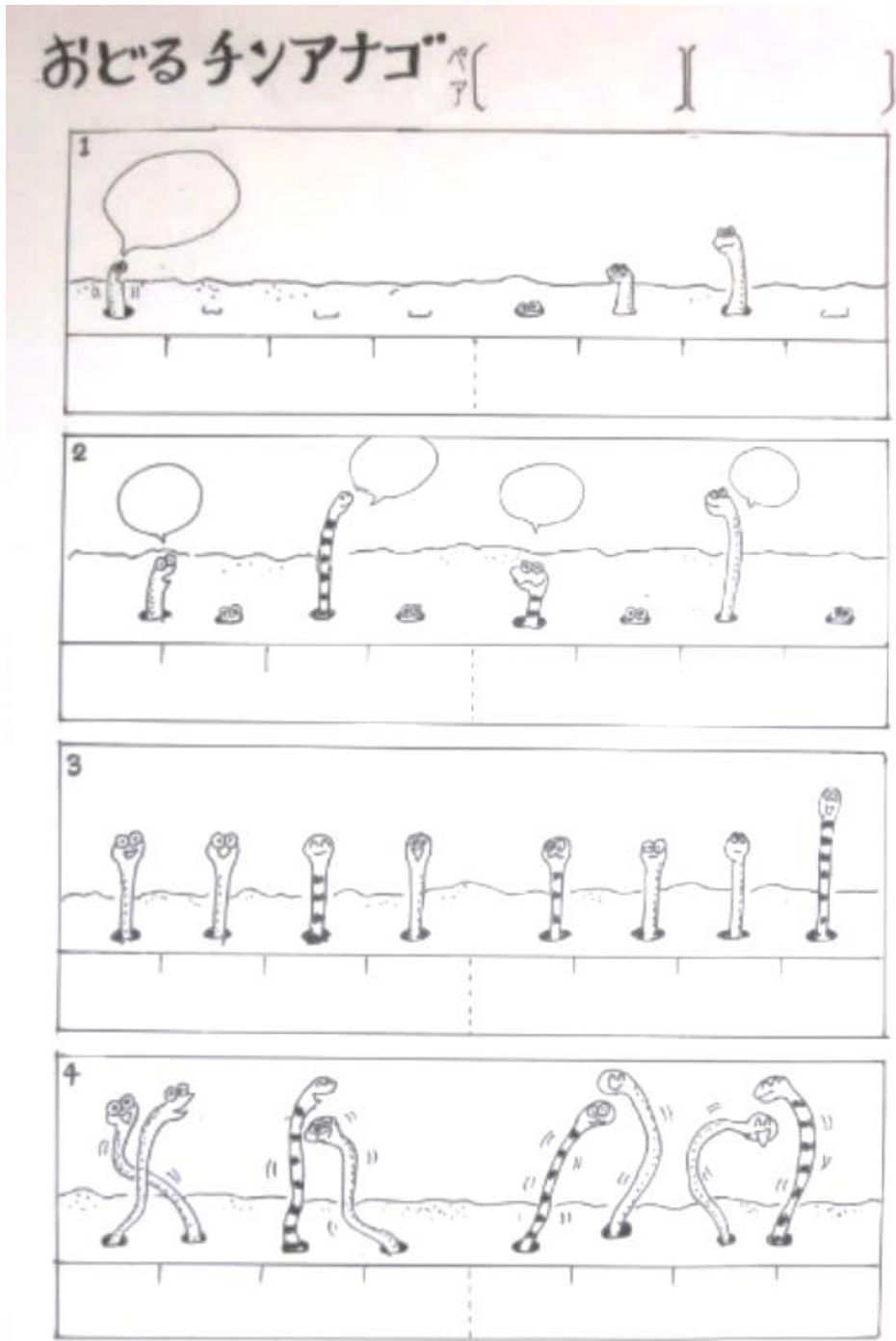
- ①主眼 ペアで考えたセリフを入れた4コマのチンアナゴの絵を基に、協力しながら沖縄音階から音を選び、音の動きとリズムを工夫してチンアナゴの動きや様子を表す8小節の音楽をつくることができる。
- ②本時の位置 5時間扱い中の第5時
- ③指導上の留意点 自分たちの音がよく聞こえるように、音楽をつくる時は3教室に分かれる。
- ④展開

段階	学習活動	予想される児童の動き	教師の指導 C: C評価児童への手立て	時間	備考・準備品
導入	1, まねっこタイム	・2小節の旋律を聴いて鉄琴を弾いたり歌ったりする。ペアで役割交代して行う。	<p>・本時のヒントになりそうな旋律を弾く。</p> <p>・学習問題を確認させる。</p> <p>・自分たちで書いて</p>	3	鉄琴  拡大作曲シー
	2, 学習問題を把握する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           学習問題：ペアで協力しながら「踊るチンアナゴ」の音楽を沖縄音階を使ってつくろう。         </div>		1	
	3, 本時の学習	・「みんな、出ておいでよ」ってセリフは「みんな			

展 開	課題をつかむ。	な！」と元気に呼びかける感じにしたい。だから高めの音かな。 ・「ねえねえ、起きてよ」というのは寝ている仲間に呼びかける感じ。低めの音かな。	たセリフをどんな感じで言うのか声に出して言わせてり動作化させたりする。その感じが出る音を選び、動き方やリズムを工夫してつくることを確認させ、学習課題をつかませる。	6	ト
	4, 自分たちの場所へ移動して音楽をつくる。  できた音楽をシートに書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         ペアで書いたチンアナゴの動きや様子を表すセリフを基に、音を選び、その音の動きとリズムを工夫して8小節の音楽をつくろう。       </div> ・「みんな！」はソド！ってどうかな。「出ておいでよ」は、いろいろ弾いて考えてみよう。「ドソシドド」でどう。2小節になるかな。 ・2枚目は○さんがつくってみて。 ・うーん、あまり思いつかない。 ・いいよ。「ひよこっ」て感じを「ドソウン、ミドウン」を繰り返す。 ・すごいなあ。ぼくもそれ弾けるかな。 ・3枚目はおどり。タッタタッタタッタでやりたいよね。音はあまり動かない感じ ・4枚目はノリノリの感じにしたい。どうすればいいかなあ。 ・他のペアの作品を聴く。 ・いろんな音を使ってタッタッタのリズムを速くやってる。ノリノリの感じが出てるね。マレットを2本使えばできるんだね。 ・8小節あるから半分ずつ分担しようか。 ・僕はうまく弾けないから手拍子をやるね。 ・穴から「ひよこっ」て出てくる感じがする。 ・手拍子と音楽が合っていて楽しい感じ。 ・このセリフがこういう音楽になるんだね。 ・二人で考えることができた。 ・場面ごとにリズムを工夫できた。特に気に入っているのは踊りのところ。リズムと音の動き方で元気に踊っている感じにできた。 ・演奏は2人で分担してできた。自分たちで考えたセリフに合う音楽ができて楽しかった。ペア毎に音楽が違ってくるのがおもしろかった。	C:セリフを言わせたり、セリフを歌のように言ってみたり、リズム打ちをしたりして、つくりたい音楽のイメージを形作っていく。 ・工夫できている作品を紹介する。 ・演奏分担はペアで決めさせる。 ◆沖縄音階を使い、音の動きとリズムを工夫して、チンアナゴの動きや様子を表すセリフを基にした音楽を協力してつくることできる。 ・音楽室に集合させ、感想を書かせて発表させる。	15	作曲シート。  音の動きとリズムのパターンを掲示
終 末	5, 練習する。			5	
	6, グループ内のペア同士で発表・鑑賞し、感想を伝え合う。 7, 頭を使ったこと、友だちのことについて、振り返る。			10	
				5	振り返り用紙

(7) 討議の柱

- 音楽をつくる喜びを感じるために、チンアナゴを題材にした絵を準備してイメージを共有させ、チンアナゴの動きや様子を表す音楽をつくらせたことは有効だったか。
- 音楽づくりをするために、リコーダーや鍵盤ハーモニカではなく鉄琴を使ったことは有効だったか。



(8) 参会された先生方からのご意見

**成果**

○鉄琴を使用したこと

- ・沖縄音楽のルーツに合うガムラン音楽の楽器グンデルの音色に準ずる鉄琴で表現したことが伝統文化に沿っていて良かった。
- ・技術的に難しい児童でも楽しく取り組めて良い。
- ・創作のハードルが下がって楽しめる。
- ・使用する音を分かりやすくした工夫もよかった。
- ・木琴や他の打楽器を組み合わせでの表現に発展も期待できる。

○UD化の視点がふんだんに盛り込まれていたため安心して楽しく創作していた。

- ・音楽づくりのヒントの掲示物
- ・タイムテーブル

○児童が楽しんで学んでいた。熱心だった。

○子どもたちが考えを出し合いながら試行錯誤していく姿や寄り添って活動していく姿が素晴らしかった。

○イラストの使用

- ・4コママンガを使ってイメージを具体化し、共有して活動する授業はICTを活用するとさらに幅が広がり、試行錯誤しながら活動する時間が長くなり学びがより深まると感じた。
- ・子どもたちが目で見てイメージしやすく、取り組みやすい。
- ・チンアナゴの絵が表情豊かでよりイメージしやすくなった。
- ・活動の拠り所となっていた。

○音楽づくりのヒントの掲示物や日々のまねっこ活動の積み重ねが本時に生きていた。

○沖縄音階に限定したことで、ペア学習がやりやすくなっていた。

○自分で説明できないことがペアでやることで思いの言語化につながるならば、ペアの意味がある。

○普段ほとんどしゃべらない児童が、自分のイメージを、鉄琴を鳴らすことで伝える姿が非常に心に残った。

○学習の流れが、子どもたちに分かりやすく可視化、焦点化されていた。

**課題**

○鉄琴を使用したこと

- ・聴覚過敏や、金属音が苦手な児童もいる場合もあるため、その場合には沖縄音楽の太鼓類や小さな打楽器なども使用可能にして1コマは打楽器を入れても良いことにすればよい。
- ・友と対話して作るが、個人として音そのものと対話するには鉄琴の響き自体とメロディをどうつないで変化させていくかももう少し考えられたようにも感じた。

○4コママンガ

- ・音の高さと絵をつなぐのも容易であり、よく吟味して考えられていたが、逆に創作の幅を狭めている面があったかもしれない。
- ・ストーリー性があり、どんなことを会話しているのか、どんな変化をしていくのか、などイメージをもつのに役立っていたが、それをどう音として表現につなげるかは、4年生にとっては少し難しい課題だったかもしれない。



## アイデア

- ・4コマという縛りを無くした方が、個の発想をより生かした工夫ができるのではないかと。
- ・4コマの絵もすばらしいが、曲がるストローなどで動かせるチンアナゴを作って動かしながら考えたらどうか。
- ・音楽要素を音程のみなどに限定してハードルを低くするとさらに多くの子どもたちが取り組みやすくなるのではないかと。

### (9) 指導主事の先生からのご指導

#### ① 研究について

まねっこ遊びは良い活動である。音の動きやリズムの変化を先生がまずやってみる。そして、子どもたちがまねっこで試してみる。このことは以前の全校研究から大事にしてきたことである。児童の様子から、音を間違えてたたいている部分もあるが、リズムは意識していた。音やリズムに触れさせること、音を出すことが苦手な児童にとっては大切なことになる。

子どもたちの活動の時間をなるべく長く取りたいということから、その工夫としてタイムテーブルを示したが、とても分かりやすかった。

#### ② 本時の授業から

3会場に分かれて音楽づくりの活動を行った。HさんとTさんのペアについて考えてみたい。

活動が始まるとすぐに掲示されたヒントの紙の前に行った。何をやったらいいのか、何を学んだらいいのか、何を要素として進めていったらいいのかが紙に示されていた。

Hさんはソのオクターブの跳躍を試している。何回もやっていた。今回17グループのペアがあり、先生も回るのが大変だったが、先生の声かけに背中を押されて進んでいた。先生に認められることが児童の背中を押していた。

3段目の絵の場面では、チンアナゴの絵の描かれている部分に定規で線を引いて考えていた。音の高さを書き込んでいた。楽器を用いて音を決めていた。Hさんはソの跳躍を試していたが、それも試行の一部で学びにつながっていった。納得のいく音の動きやリズムでつくることができた。うなずいたり、「これだ。」という姿が見られた。

4段目の絵の場面では、TさんがHさんに「音を2つに分けたらどうかな。」と相談する姿が見られた。本来は1つの音でやるかと思われたところ、2つに分けて、Tさんが上、Hさんが下に分かれて2人で演奏するというアイデアが出てきた。2人はいろいろな音やリズムを試していき、打ち合わせをしたわけでもなかったが、ちょうど2人のタイミングがあって、「せーの。」で自然と合わせていた。すばらしいところは2人とも音の幅を広げて合わせていたところ。そんなところからもチンアナゴの様子や動きを考えたのではないかと。

ペア同士の発表の時間では、音楽作りに時間をかけていたため、練習に時間を割くことはほとんどできなかったが、友だちの前で発表することができた。友だちから「2人で合わせるところがきれいだった。」と感想をもらっていた。この後、音楽室に戻ってまとめをするときにも、まだ紙を見ながら言い合っている姿が見られた。これこそが、北御牧小学校の研究テーマに沿った、自らの学びに夢中になる姿の1つではないかと。

振り返りの記述では、自己評価に◎がたくさんあった。充実した学びの時間になったことがうかがえる。特にTさんの楽しかったことの欄「リズムを変えて、音の組み合わせを変えたこと」、Hさんの「2人でそろえたこと」の記述は、主眼の達成にもつながるものである。

発表で演奏がうまくできなかったとか、練習ができなかったとかいう記述は全く見られなかった。今回はつくすることに子どもたちの目が向いていた。研究テーマの達成にもつながる記述である。学習

カードの工夫をしたり、鍵盤を限定したりしたことが子どもたちの主体的な学びにつながっていた。

### ③今後に向けて

共有場面で、素敵な場面をたくさんとりあげるのもよい。継続性を意識してやっていければいいと感じた。

## 五 研究のまとめと課題

本委員会では本年度の実践を通して、下記のように研究を深めてきた。

北御牧小学校の、音楽づくり「沖縄の音階の音を使って音楽をつくろう」の授業実践からわかってきたこととして次のことが挙げられる。

- ①本時の手立てとして何を中心に据えるかを明確にもつことが必要である。学年や学級に合う手立てがそれぞれあり、何が有効かを見極めて取り組むことにより、子どもたちの学びがふくらんでいく。より適切なものを見いだしていくことを大切にしたい。
- ②材研究、素材研究、児童生徒のみとりが適切に行えていると、児童生徒の学びがこちらの意図を越えていくときがある。このことは、自らの学びに夢中になれる子どもの育成のためには、欠かすことのできない過程であるとともに、教師の側の授業準備のあり方について一つの示唆を与えてくれている。
- ③主体的・対話的で深い学びの実践に向けて、数々の工夫を示すことが必要になってくる。

また、コロナ禍における音楽教育の実践からわかってきたこととしては次のことが挙げられる。

- ①従来、歌唱・器楽分野の学習時間が多く取られてきていたが、鑑賞や音楽づくり・創作の分野への授業数が増加したことにより、この分野への教材研究が深化し、新しいジャンルの発掘にもつながった。
- ②前年度を活かし、年度当初からの題材配列の変更など、柔軟に行うことができ、学校行事や評価計画などに支障を来すことなく実践することができた。
- ③昨年度本委員会で行った「コロナ禍における音楽教育に関するアンケート」の結果を受けて、自校での授業に活かした実践の共有がなされた。
- ④音楽会を延期した学校が多く、児童生徒の意識をどのように継続していったらよいかについては課題が残った。

上記まとめと課題をふまえ、「主体的、対話的で深い学び」を音楽科でどのように実践してくか、「コロナ禍において、音楽科におけるカリキュラムマネジメントの在り方」をどのように行っていくかについて、さらに研究を深めていき、今後、本委員会から発信していければと思う。